

3) 野川などの市街地を流れる身近な水辺景観

市街地を流れる野川などの水辺空間が，市民生活と近い距離にあることで，のどかな景観をつくり出しています。また，水辺の桜や菜の花など四季の変化を市民が日々感じることができる景観となっています。



野川大橋から神代団地方面を望む（入間町）



野川橋から望む住宅地の前を流れる野川（菊野台）



弁天橋から望む住宅地を流れる仙川（緑ヶ丘）



野川の桜並木

4) 大小の坂道と崖線緑地がつくる景観

大小 200 を超える様々な特徴や名称を持つ坂道と，国分寺崖線，布田崖線（立川崖線）などに残る緑地が，印象的な景観をつくり出しています。



まちの背景となる仙川沿いに残る仙川崖線の緑地



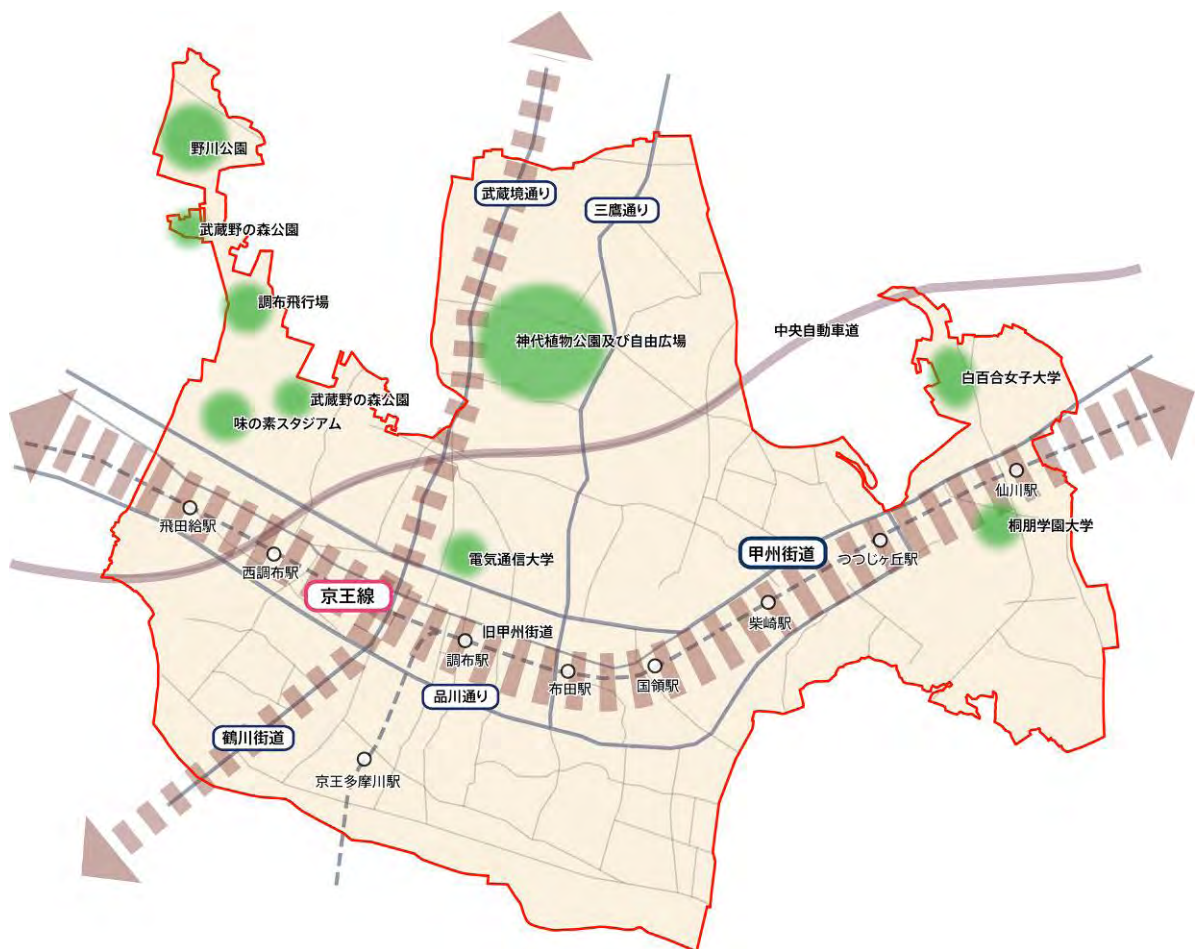
※布田崖線（立川崖線）に残る樹林地と坂

注) ※のついている写真は，市民検討会委員が撮影した写真を使用しています。

(2) 街道沿いに発展したまちの成り立ちがつくる景観

市域を東西に貫く甲州街道と京王線を交通軸として、南北方向に市街化が進むことにより、自然環境と都市環境が編み込まれるように多様な景観が作り出されています。

- 1) 甲州街道と京王線を東西軸として南北方向に広がる市街地景観
- 2) 市の東西を貫通する主要交通施設がつくる景観
- 3) 市民生活を支える表情豊かな沿道景観
- 4) ゆったりと心地良い歩くことが楽しくなる歩行景観
- 5) 地域の景観拠点となる個性が漂う9つの駅前景観
- 6) まとまりのある土地利用がつくる個性的な景観

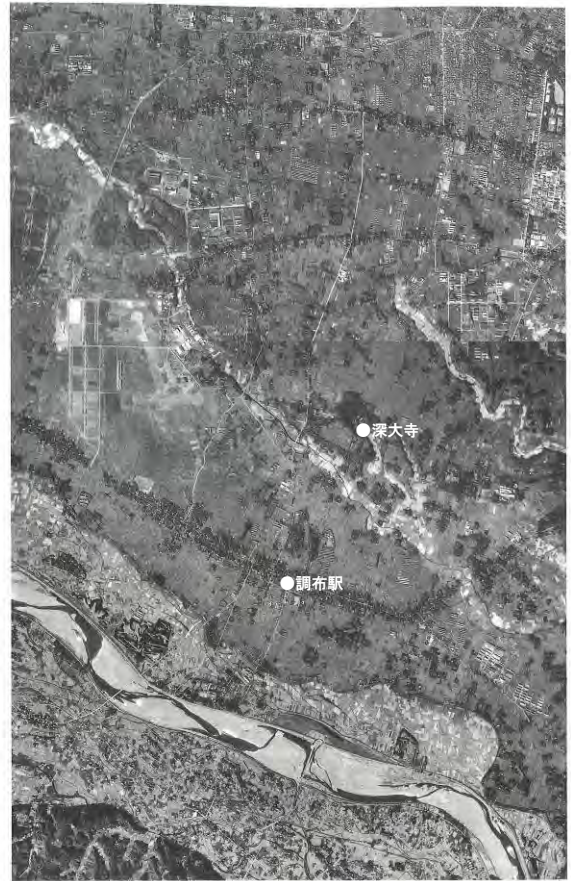


1) 甲州街道と京王線を東西軸として南北方向に広がる市街地景観

立地環境や市街地の形成時期などから、自然環境と都市環境が多種多様に混じり合うことで、地域ごとに個性的な景観が形成され、大小のパッチワークのように市全域に広がっています。



平成9年（1997年）建設省国土地理院撮影



昭和22年（1947年）米極東空軍撮影

出典) 図説 調布の歴史（平成12年3月）



文化会館たづくり上階から望む市街地の広がり（味の素スタジアム方面）



文化会館たづくり上階から望む市街地の広がり（国領町方面）



旧甲州街道沿い



中央自動車道インターチェンジ[®]周辺



深大寺北町周辺



若葉町周辺



染地周辺



つつじヶ丘駅周辺

2) 市の東西を貫通する主要交通施設がつくる景観

市街地中央を東西に貫く甲州街道と京王線が、市民生活を支える基盤となるとともに、まちの印象を高める景観を形成しています。



国分寺崖線を下る甲州街道のケヤキ並木



深大寺南町池ノ谷橋から望む中央自動車道



国領駅前の踏切を通過する京王線



柴崎駅前の踏切を通過する京王線

3) 市民生活を支える表情豊かな沿道景観

市民生活を支える道路は、街路樹や沿道の地域特性などにより表情豊かな沿道景観を形成しています。



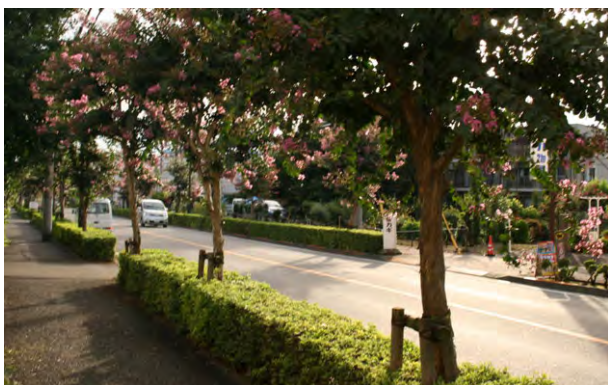
市街地への眺望が広がる武蔵境通り



沿道に都市型住宅が立地する旧甲州街道



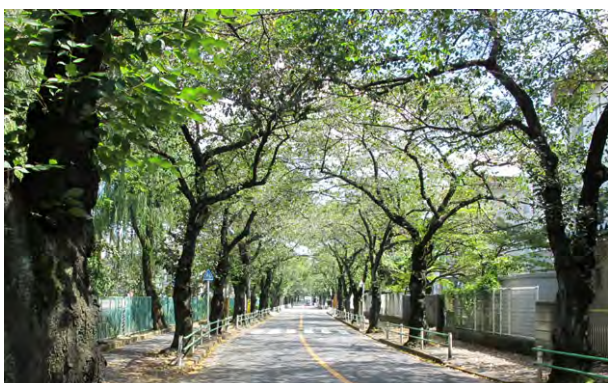
国分寺崖線の緑があふれる三鷹通り



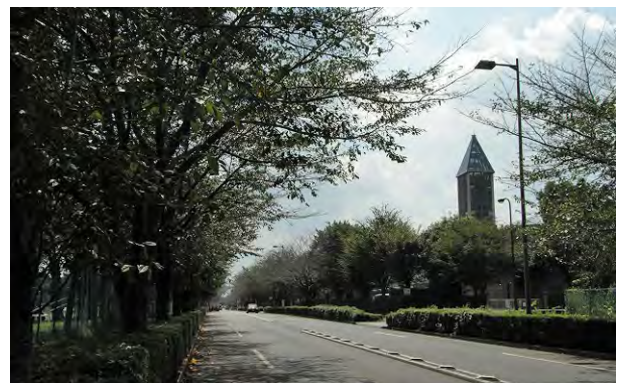
※品川通りのサルスベリ並木



※品川通りに残る屋敷林



※多摩川住宅の桜並木



※スタジアム通りの沿道景観

4) ゆったりと心地良い歩くことが楽しくなる歩行景観

野川沿いの遊歩道，仙川遊歩道，染地せせらぎの散歩道，桜堤通りの彫刻のある散歩路など，生活の身近なところに快適な歩行空間が整備され，多様な景観変化を楽しむことができます。



神代植物公園周辺の自由広場脇の歩道



※野川サイクリング道路



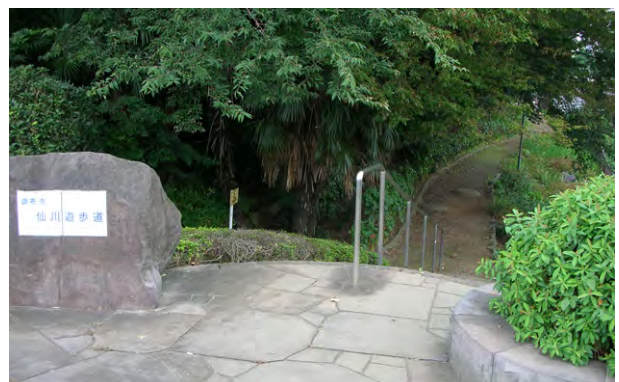
※電気通信大学脇の杉並木が残る道



桜並木のあるスタジアム通りの歩道



※染地せせらぎの散歩道



※仙川遊歩道



※調和小学校脇のあじさいロード



※桜堤通りの彫刻のある散歩路

5) 地域の景観拠点となる個性が漂う9つの駅前景観

京王線沿いに発達したまちを特徴づける地域個性が漂う9つの駅前や商店街の景観が形成されています。また、京王線連続立体交差事業を契機とする新しい駅前広場の整備など、調布の顔ともなる駅前景観の形成や中心市街地の活性化も期待されています。



仙川駅周辺



柴崎駅周辺



国領駅周辺



調布駅北口周辺



調布駅南口周辺



飛田給駅周辺



京王多摩川駅周辺